

～カナダ・バンクーバーへの短期留学～

教育学部 渡部有紀

◆留学の理由・目的◆

TESOL について学びを深めたいと思ったから

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Language) とは、英語を母語としない人向けの英語教授法です。欧米の語学学校で英語を教える際には、このコースの Diploma 取得が必須条件となっています。私は、この TESOL のメソッドが今の日本英語教育のニーズに非常にあっていると考え、ぜひ学びたいと考えました。

今の自分に疑問を持ったから

中学校の英語教員になることが、中学生の頃からの夢であり、大学や学部・専攻も迷わず決めて過ごしてきました。しかし、エスカレーター式に進級して大学生生活を過ごす中で、「自分はそのまま教師になってよいのか」という問いが自分の中で大きくなり、何か大学での確かな経験と言えることがほしいと考え、トビタテに応募し留学させていただきました。

◆留学先での学習・活動◆

TESOL コースを受講し、Certificate&Diploma の取得

ESL (English as a Second Language… 留学生向けの英語を学ぶコース) における一か月間の実習による知識の応用・昇華

◆生活の環境◆

私は、学校から斡旋されたホスト先で3か月間ホームステイを体験しました。学校のあるバンクーバーから、電車を乗り継いで40分ほどにあるバーナビーにありました。

◆授業での課題について◆

予習、復習、模擬授業の準備…など、沢山ありました。また、Science Fair といって、ほかのコースの生徒を招き、科学の実験を英語で行う、という事も行いました。なかなかハードでしたが、勉強のすべてに一貫性があり、学ぶことを楽しんでいました。

◆教育実習について◆

ESL にて、1ヶ月間の教育実習に参加しました。クラスは Children、Middle、そして Adult と、年齢によって大別されており、その中でも能力によってクラスが細かく分けられていました。私は Middle のクラスに配属されました。夏休み中という事もあり、多様な国から生徒が学びに来ていました。私は主に、授業の観察や先生のサポート、そして数回の授業（1回あたり90分）を行いました。大変だったのは、やはり ALL English で授業をすることでした。日本語の代用がきかない状況の中で柔軟に対応する力が求められ、非常に緊張しました。また、TESOL の授業では ICT や少人数を想定した教授法を学んできたのに対し、設備が

整っていなかったり、生徒が20人前後いる中での授業を求められたりと、理論と実践の差を痛感することもありました。しかし生徒は一生懸命私の授業についてきてくれ、また積極的に交流してくれました。積極的に他国の子とコミュニケーションを図り、どんどん英語を上達させていく子供たちが印象的でした。

◆ 1日あたりのスケジュール ◆

時刻	～5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1～
行動	睡眠	起床・朝食	身支度	通学・授業準備	授業			昼食	授業			帰宅・勉強		夕食	勉強 or 自由時間						就寝

私のコースは予習がないとなかなかついていけず、また模擬授業が週一回あったので、毎日勉強漬けでした。実習中もだいたい同じスケジュールで行動し、自分の生活サイクルを崩さないように気を付けていました。

◆ 印象に残った留学中のエピソード ◆

ホストマザーとの大喧嘩です。ホームステイには当たりはずれがあると言いますが、私はおそらく「大ハズレ」でした。笑

1ヶ月目終盤のある日、メキシカン女の子が私たちのホームステイ先に到着しました。マザーはエージェントの手違いだとしつつ、うちに滞在するように言いました（なぜなら収入になるからです）。しかし、部屋はどこも満室だったので、マザーは彼女にエントランスに簡易ベッドを置くからそこで寝よう指示しました。彼女は動揺して泣いているし、エントランスは階上から丸見えでプライバシーのかけらもありません。そこで私と同じ部屋で生活していたブラジリアンの子が、私と生活場所を交換しよう、と彼女とマザーに提案しました。それではマザーの思惑通りだ、と私が怒り、「The problem is someone will sleep at the entrance!!」と喚き散らしました。（この瞬間は一生忘れないと思います）私の爆発が功を奏したのかは分かりませんが、結局その女の子は別のホームステイ先へ無事移っていきました。皮肉にも、この時から英語を話すことに抵抗がなくなっていきました。アクションしなければ始まらない、という事を体得したからだと思います。

◆ 留学して学んだこと ◆

- ・日本の良さの逆輸入 ・どんな状況でも切り抜ける「生きる力」
- ・社交性の向上 ・語学力の向上
- ・グローバルな視野 ・固定観念の破壊
- ・世界への探求心 ・周りの人への感謝・尊敬の念

◆語学がどのくらい上達したか◆

私は3か月という短期留学であった上、語学学校に通うことをプログラムに含まなかったため、語学（英語）全体の飛躍的な向上を感じられたか、と言われるとなかなか難しいです。あえて挙げるとすると、スピーキング能力です。

ローコンテキストの欧米社会では、自分が発信する勇気を持たないと、話し相手はこちらの気持ちをさっぱりくみ取ってくれません。そのため、文法が間違っていようが発音が良くなかろうが、恥を捨てて会話をすることに努めました。そのおかげで、英語を話すのに緊張し、恥ずかしがっていた入国当時と比べると、今では楽に英語が口から出てくるようになったかな、と思います。

◆留学を勧める理由◆

私は、かつての自分と同じように、「留学したいけど、今の自分でいいのか、今行くべきなのか」と迷っている人こそ、行ってほしいです。留学は、自分の意志で自分の人生を変える足掛かりとなると感じています。新しい環境というものは、私たち一人ひとりに、多様な挫折と試練、そして成功を与えてくれるからです。それは確かな経験として自分の中に染みつき、今後の原動力となります。異文化理解、コミュニケーション能力の向上、語学力 up、研究の進展などは、言うなればただの付加価値です。

◆トビタテで留学して良かったこと◆

自分に自信がつく

トビタテに応募するところから、私の留学は始まっていました。というのも、両親に対し「もしトビタテに合格できなければ、私は留学をあきらめて教員採用試験を受ける」と宣言していたからです。覚悟を決めて臨んだ結果、見事採用していただきましたが、この経験のおかげで自分のとった行動が間違いではなかったと感じ、大きな自信につながりました。この自己肯定感はこの先人生の様々な局面においても私を助けてくれると思います。

自分と年が近い人たちの多種多様な考え方に触れることができる

トビタテは、事前研修・事後研修において、同じく採用された人たちと交流を深めたり、思考や人生背景を共有したりする時間が沢山あります。自分が考えもしなかった世界や価値観を知ることができ、知見を得ることができます。また、自分の偏ったものの観方や先入観が破壊される機会ともなります。年の近い人がその人の生い立ち・専攻等により自分とは全く違うものを見ている、という感覚は普段なかなか感じられないことではないでしょうか。人生の刺激になります。



